

平成27年度第1回草加市みんなでまちづくり会議

議 事 録

1 開催日時

平成27年4月21日（火）午後7時から午後9時

2 開催場所

草加市立中央公民館 第1・2講座室

3 出席者の氏名

(1) 登録員 17名

(2) 事務局 みんなでまちづくり課：山岡課長、藤倉課長補佐(兼)市民活動センター所長、
巖上主任、井上主事、木村主事、二見主事、吉田主事
市民活動センター：亀山主査、細野主事

(3) 草加市 総合政策課：芝田課長、岡田課長補佐

4 会議の議題

「地域コミュニティの再生－安全・安心して暮らせるまちづくり－」

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者数

0人

7 会議の内容

別紙議事録のとおり

8 議事録署名人

坂本豊登録員、宮本節子登録員

平成27年度第1回草加市みんなでまちづくり会議 議 事 録

【実施日時】 平成27年4月21日（火）午後7時～午後9時

【実施場所】 草加市立中央公民館 第1・2講座室

【出席者】 まちづくり登録員：17名、傍聴者：0名

事務局：みんなでまちづくり課（山岡課長、藤倉課長補佐(兼)市民活動センター所長
巖上主任、井上主事、木村主事、二見主事、吉田主事）

市民活動センター（亀山主査、細野主事）

草加市：総合政策課（芝田課長、岡田課長補佐）

1. 開 会

2. 議 事

【議題】 「地域コミュニティの再生－安全・安心して暮らせるまちづくり－」

3. 閉 会

【議事内容】

-開会-

【事務局】
(藤倉課長補佐)

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、平成27年度第1回草加市みんなでまちづくり会議を開催します。

本日司会を務めさせていただきます、今年度よりみんなでまちづくり課 課長補佐になりました藤倉です。よろしくお願いします。

初めに、事務局のみんなでまちづくり課長 山岡よりご挨拶申し上げます。

【事務局】
(山岡課長)

本日は、ご多忙の中お集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃からまちづくりに積極的に取り組んでいただき、重ねて感謝を申し上げます。

みんなでまちづくり会議は、もともとはみんなでまちづくり自治基本条例に言うところの提案があった時にしか開催されない会議でしたが、昨年度、運用面の規則を改正して、提案がなくても開催できるようにしました。そして、年4回の定期開催に向けて、会議の場で話し合うテーマを登録員の皆様から募集したところ、5件のテーマをご応募いただきました。前回のみんなでまちづくり会議では、この5件のテーマについてどのように話し合うかについて意見交換を行った結果、最初に「地域コミュニティの再生－安全・安心して暮らせるまちづくり－」について、次に「市民が安全にかつ快適に利用できる公共的施設づくり」について話し合う事が決まりました。残りの3つのテーマについては、今後どこかのタイミングでご応募いただいた方からそのテーマの趣旨等を説明していただきながら、それ以降の話し合う順番等を決めていきたいと考えております。

前回の会議の中で、市民同士の話し合いの場だから市民が進行した方がいいだろうというご意見があり、本日の進行をお申し出いただきましたまちづくり登録員の長谷部様に進めていただきながら、「地域コミュニティの再生－安全・安心して暮らせるまちづくり－」をテーマとして意見交換を行いた

<p>【事務局】 (藤倉課長補佐)</p> <p>-議題-</p> <p>【進行】</p> <p>【事務局】 (藤倉課長補佐)</p>	<p>いと考えております。限られた時間ですが、どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>【配布資料確認】</p> <p>①会議次第 ②資料「草加市みんなでまちづくり会議応募テーマ一覧（５件）」 ③資料「みんなでまちづくり会議の運用」 ④リーフレット「草加市みんなでまちづくり自治基本条例」 ⑤条文「草加市みんなでまちづくり自治基本条例」 ⑥条文「草加市みんなでまちづくり自治基本条例に定めるまちづくりの参画手続に関する規則」 ⑦広報そうか平成19年3月5日号みんなでまちづくり特集号 ⑧そうか市議会報「みんなでまちづくり条例審査特別委員会特集号」 （平成16年4月発行）</p> <p>【会議録の署名について】</p> <p>会議開催に当たり議事録を作成しますので、議事録の署名人を2名決定します。本日は、坂本豊様、宮本節子様をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。坂本様、宮本様、よろしく申し上げます。</p> <p>本日の議題は「地域コミュニティの再生－安全・安心して暮らせるまちづくり－」です。本日の会議は、前回の会議でまちづくり登録員の長谷部様に進行していただく事に決まりました。それではよろしくお願いたします。</p> <p>みなさんこんばんは。本日はよろしく申し上げます。それでは、この会議の趣旨等の説明を事務局から手短に申し上げます。</p> <p>お配りしましたリーフレット「草加市みんなでまちづくり自治基本条例」と、資料「みんなでまちづくり会議の運用」を見ていただきながら進めていきたいと思えます。</p> <p>本日、皆さまにお集まりいただいているこの「草加市みんなでまちづくり会議」は、草加市みんなでまちづくり自治基本条例に基づき開催している会議です。この「草加市みんなでまちづくり自治基本条例」は市の最高規範として『だれもが幸せなまち』をつくるため、市政の基本となる原則や方針を定めるものとして施行されました。この条例の特徴は、市民の提案権や発言の場などを保障し、市民の皆さんが直接まちづくりに参加できることにあります。今までこの会議に提出された提案は4件あります。</p> <p>本日、さまざまな分野の方がいろんな意見を出し合って意見交換を行った結果、よりよいものにまとまって、市に提案してみようという事になれば、皆さんのまちづくり計画を市に提案する事ができます。提案が提出されると、市は市政へ反映するかを検討し、検討した結果を再度みんなでまちづくり会議で登録員の皆さまに公表・説明する仕組みになっています。</p> <p>提案できるまちづくり計画の要件は、参画手続に関する規則第10条に、 ①対等の立場…パートナーシップによるまちづくりの7つの原則に基づくもの（主体性・対等性・協調性・柔軟性・公開性・普遍性・発展性（自治基本条例第4条）） ②共通して取り組む目的…市の基本構想及び各分野の基本的な計</p>
---	--

画に反しないもの ③役割分担…提案者と市の役割分担が設定されているもの（双方の役割がゼロでないもの）と定められており、要件を満たしている提案を市として受けるという形をとっています。みんなでまちづくり会議には、「市民同士の話し合い」「市からの発信・情報共有」「提案について考える」という3つの機能があります。今までは、「提案について考える」という機能で開催していた会議でしたが、本日は「市民同士の話し合い」として進めてまいります。

【登録員A】

今、事務局から、自治基本条例は市の最高規範であると説明があり、また、古い話ですが、市議会報にも市の最高規範というような事が書いてあります。憲法とも言える最高規範だという意味だと思うのですが、それでは、国会で決まった法律はどのような位置になるのでしょうか。法律よりも上だという事でしょうか。

【事務局】
(山岡課長)

草加市みんなでまちづくり自治基本条例には、「草加市における最高規範」だと書いてあるので、市の条例の中で最も上に位置するという事です。

【登録員A】

分かりました。誤解のないように正確におっしゃってください。

【進行】

それでは進めさせていただきます。みんなでまちづくり自治基本条例については、前々市長の時に初めて、市民と行政とのパートナーシップによるまちづくりシンポジウムが中央公民館で催されました。それがみんなでまちづくり自治基本条例という、草加市民にとってとても大事な条例として制定されたと認識しております。この条例の運用がうまくいかないという事がありますが、条例を有効に活用したいという気持ちは皆さん一緒だと思います。

それでは、本日のテーマである「地域コミュニティの再生—安全・安心して暮らせるまちづくり—」を出題されたまちづくり登録員の島根様から、テーマの趣旨について説明していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【テーマ出題者】

私は定年退職してから数年が経ちますが、今まで草加市民として30数年、住んでいる割には何もしてこなかったという反省もありまして、少しでも自分の住んでいるまちがよくなればという思いでまちづくり登録員として登録をしております。

私は団塊世代の初めの方で、これから高齢者になって国や市の厄介になるので、少しでも自分や市の暮らしがよくなればという事で地域再生について考えてみました。特に最近、地方の再生が言われていますが、それは地方だけでなく大都市でもあり得るので、身近な問題として考えました。しかし、言うのは簡単ですが、それを解決する事は難しいと日々感じております。特に高齢者問題は社会保障費の増加という事で、かなり厳しいと感じております。そういった国や県レベルの大きな問題もありますが、老齢世代である私たちをもっと活用していただける、或いは自ら活用できるような社会になれば元気な高齢者でいられるので、高齢化社会の到来が少しでも延長できるのではないかと考えました。

皆さんの意見を聞いた後、高齢者問題の視点から考えて、3つのテーマで

	<p>議論を深めていただければと思っております。よろしく申し上げます。</p> <p>【進行】</p> <p>ありがとうございました。高齢者問題は避けて通れないので、この場で皆さんと意見交換を行って市政に反映させられたらという事です。</p> <p>これからの進行ですが、趣旨説明を基に各グループで意見交換を行って、出た意見をグループごとに模造紙に整理してください。その後、全体で発表を行って、みんなでまちづくり会議全体で意見を共有します。出た意見は事務局がホワイトボードに記入しますので、共有した内容に基づいて再度意見交換を行っていただきたいと思えます。最後に島根登録員から皆さんのご意見を聞いた感想等をお話いただければと思えます。</p> <p>大変幅広いテーマなので、島根登録員から話がありましたように、内容は3つに分かれるとの事です。本日、全て語りきれない部分があったら、次回はもう少しテーマを絞って話し合いを行う事も視野に入れて進めたいと思えます。</p> <p>それでは、各グループでリーダーと発表者を決めてから議論を始めてください。事務局は各グループの補助をお願いします。</p> <p>【登録員】</p> <p>【各グループの意見交換（約30分）・意見の整理（約10分）】</p> <p>【進行】</p> <p>Aグループから発表をお願いします。模造紙に書いていない事でも思いついたら発表してください。</p> <p>【登録員B】</p> <p>安心・安全って一体何でしょうという事に着目して、安全は生命・財産の問題だろう、安心は心の問題だろうと分けて考えました。安心・安全という、住みやすい地域や犯罪のないまちです。安全も細かい事になりますと、自転車マナーの向上や自転車専用のレーンを作って欲しいという意見がありました。他には、なぜ市営駐輪場がないのかという意見が出ました。そして、安全・安心の両方につながると思うのですが、コミュニティのつながりがある地域で活力がある地域、活動できる場をつくる地域、居場所がある地域、自分を認めてもらう場所や機会がある地域、そういったことが安心につながるのではないのでしょうか。細かい事を言えば、高齢者の自主的なボランティア活動や若い世代の交流ができる地域であるためには、自助と共助と公助の連携が重要だろうという事です。</p> <p>話は変わりますが、地域のつながりを拒んでいるのは個人情報ではないかという意見が出ました。安心安全やコミュニティとは関係ないかもしれませんが、個人的には役所と市民との信頼関係が大切ではないかと思えます。草加市は市民力が強く豊かです。それをどのようにコーディネートしていくかを考える必要があるのではないかと思えます。</p> <p>【進行】</p> <p>ありがとうございます。まだ時間がありますので、他の方で補足があればどうぞ。</p> <p>【登録員C】</p> <p>安心・安全というのは具体的な事ではない、いわゆる絵に描いた餅のようなどころがあるので、一人一人によって思っている事が違います。そういった人たちが集まった時に何ができるのかが問題であり、集まって活動できる</p>
--	---

人たちはまだいいけれど、その場に出て来ない人たちをどうするか、そういった人たちをどうしたら輪の中に入れられるのか、それはそれでいいのかどうかという問題も出てくると思います。地域の問題というのは個人をどこまで認め、また、まちとしてどこまで入っていいのか、それは個人情報や邪魔をしているのではないかという話になりました。ですから、役所が何をしてくれる、自分たちが役所に何を求める、そればかりではなく、自分たちがまず何ができるか、どうしたらこのまちがよくなるかを、まず自分たち一人一人が行動を起こさなければいけないのではないかという事になりました。

【進行】

ありがとうございました。それではBグループお願いします。

【登録員D】

テーマの範囲が広いので、まずは自分たちだったら何ができるかという視点から考えました。その中の一つとして、シャッター商店街をうまく使う事ができたら場所が居場所になるという話がありました。例えば、バブハウスや親子のひろばのびーすくのような乳幼児の親子が集まるつどいの広場は、空店舗の利用という側面があります。また、草加以外の場所でも、空店舗を使いながら乳幼児の親子の居場所に使っています。それだけではなく、市役所の方と話した時に、空店舗や空き家を公共の児童館のような施設として利用できないだろうかという話が出ていました。そのような場所で人が関わり合う事によって場所が居場所になります。子育て世代だけではなく、地域の高齢者が使える居場所になればいいと思います。そうすると、行政に部屋を借りてもらえないのかという話になりました。他には、高齢者のキャリアを活用する機会や趣味を生かしたサークル、高齢者同士が教え合ったり教わったりする会ができたらいいい話がありました。もしかすると、生涯学習のバンクのようなものが草加市にもあるのか、私たちは意外と行政の仕組みをあまり分かってないという話になって、もっと情報提供をしていただいて活用できればいいという話にもなりました。そして、やはりいろんな人をつなぐものが必要で、それは人なのかシステムなのか分かりませんが、私個人としては人ではなくてシステムだと思います。人が変わってしまうとそこで止まってしまうので、システムをうまく構築できればいいと思います。既存のコミュニティとして地域の中に平成塾があったり、他にもいろんな場所がありますよね。そういったところをもう少し再活用できるという話がありました。つなぎ合わせるシステムと言えば、リーダーの育成だと考える方もいました。その話の中から、一人暮らしの高齢者や独居所帯が心配だという話が出て、やはりここでもつなぎ合わせているものの一つは個人情報かもしれないという話が出ました。つなぎ合わせるシステムができていろんな人が関わる事は、いきいきとした市民をつくる事や草加市の事を考える人を増やしていく事にもつながって、そこがもしかしたら地域コミュニティ再生の一番の姿なのかもしれません。そうする事により、草加の事を考える人が増えていったらいいという話になりました。

【進行】

ありがとうございました。それではCグループお願いします。

【登録員E】

Cグループは、若い世代からベテランの方、女性・男性といった様々な立場の人がいたので、それぞれの視点から身の回りにある問題点を挙げ、それ

に対する解決策を見つけながら進めました。

まずは高齢化問題です。一人暮らしや独居の方が増えたり、40歳代の独身の方が多かったり、高齢の独居者には健康問題があります。他には、子育てをしながら親の老後をみている世代や子どもたちの問題があります。また、若い人たちが地域の活動に参加するにはどうしたらいいかという事や、空き家や空店舗が増えたので、防災や防犯の問題が関係してきます。もう一つは地域の交流で、コミュニケーションが不足していたり、お隣にどなたが住んでいるか分からないといった問題があります。これらの問題をどのように解決していくかという事で、共助と自助、自己責任と共助というキーワードが出てきました。話し合いの中で、それぞれの立場で意見を交換するコミュニケーションとしてのこの会議自体が素晴らしいものだと思個人的に感じました。全く立場が違う者同士が意見を出すので、いろんな立場からの意見が出てきますが、最終的には地域の交流が全ての問題の解決策につながるのではないかとこの事に導かれました。また、世代を超えた交流の場をつくる事や、町会や自治会の活性化がキーワードになるのではないかとこの意見が出ました。その中で、実際に若い方や子どもたちを巻き込んだイベントを行っているという事で、町会長をされているメンバーの方から、餅つきやバザー、七福神めぐりのようなイベントを通して若い方や子どもたちが地域に入ってくるような手段をとっているというご意見をいただきました。そのようなイベントに参加する事によって、町会とはこういうものだという事を小さい時からぜひ知ってもらえればと思いました。

今回の議論を通じて、いろんな視点や考え方があるので、解決策は1つではなく、たくさんの方があるのではないかとこの思いました。その中で、結局はそれぞれの個人が県や市といった行政の力を借りながら、まずは身近な方と手をとりあうような形で、周りを巻き込みながらまちづくりをしていく事が理想だと感じました。コミュニケーションの方法を議論できるこのような会議の場に、もう少し若い方、例えば子育てをしている20代の方たちが出て来られるようないい方法はないかとこの思いました。

【進行】

ありがとうございました。それではFグループお願いします。

【登録員F】

最初に高齢者が安心して暮らせるまちかどうかという事から話し合いを始めました。安心して暮らせるまちではないからこのような課題が出て来たと思うのですが、もうちょっと掘り下げて、具体的な事について話しました。

一つ目として、自転車の問題が出ました。道路の幅が狭いとか、自転車ゾーンがまちで目立つようになってきたのは最近です。そういった環境の問題の他に、自転車を運転する人のマナーの問題になりました。安心して暮らせるまちかどうかという事では、ひったくりやオレオレ詐欺の問題と併せて、何があれば安心して暮らせるまちになるのかという事で、何人かが集まって話をしようと思っても場所がないので、居場所が欲しいという事になりました。施設を借りようとしてもいつも予約がいっぱいでとれないという話がありました。施設の問題は、一方では地域コミュニティの課題にもつながっています。それに対して、本当に予約ができないのか、施設はたくさんあるのではないかとこの思いました。それから、予約がとれないと言われていますが、施設をのぞいて見るとあまり使われてない時もあるという意見が出ました。私たちが居場

所として考えるところでは、公民館やコミュニティセンターがいわゆる公共施設です。そういった施設はいつもいっぱいだと私も思っていますが、その他にも施設があるのではないかとという事で、町会会館などをもう少し活用できないかという意見が出ました。でも、町会の施設なので借り方が分からないし、町会の会員しか使えないのではないかとという事もあります。ただ、ほとんどの町会会館の建設には市からの助成金が幾分か出ているので、もっと公共的な中身があってもいいのではという意見もありました。そうすると、施設全体をもっと活用できるようにコーディネートする役割の人が必要ではないか。例えば、コミュニティセンターや公民館などが拠点になって、この施設は予約がいっぱいだけど他の施設はこのような手続きで使用できますよ、という事をコーディネートしてくれる人が必要だと思います。

二つ目は、施設は予約でいっぱいだとされていますが、実際に空いているところがあるのではないかとということです。例えば、文化会館のフリースペースのような形で、大きな部屋を日にちと時間帯を決めて活用できたらいいという話になりました。

Fグループとしては、自転車の問題から始まって、ひったくりやオレオレ詐欺、どうすれば高齢者の生活や経済が安定するかという事につながり、地域コミュニティをみんなが中心になってどのようにつくっていくのかという課題にいきつきました。居場所というのは具体的な空間の問題ですが、やはりそれをつくって活用していく地域コミュニティの大切さ、そして、施設を利用する時のマナーの問題があると思います。

【進行】

ありがとうございました。皆さん、とても熱心に議論してたくさん意見が出ました。ホワイトボードに書かれた意見をご覧になりながら、島根登録員から、テーマの出題者としてどのような事を感じるか、また、ここをもう一度聞いてみたいというところがあれば意見を発表していただきたいと思います。それではよろしくお願いします。

【テーマ出題者】

貴重な意見をいただき、大変勉強になりました。皆さんの意見は本当にごもつともで、普段私も感じていた事以上にいろんな意見が出たという事が第一の感想です。

私が住んでいるマンションも築30数年経っていて、昔は年末にお餅つきができたのですが、子どもがいなくなり、高齢者が多くなって餅がつけないので、結局数年前になくなりました。今では夏にビールを無料で振る舞うイベントを行っており、そこには結構参加しています。200世帯くらいのマンションですが、理事会がしっかりしているので理事会の人たちは面識があるのですが、それ以外の方は出て来る人と出て来ない人がはっきりしています。総会をやってもそうです。安心・安全という事を考えると、出て来ない人が問題です。結局、出て来ない人はどうしたら出て来られるのか。バザーなどの小さいイベントを積み重ねていく事と、そういったイベントになるべく多くの人が出て来られるような仕組みが必要だと思います。いきなり大きなコミュニティはできないので、小さいコミュニティをどのようにつくっていくかという事が課せられていると思います。国の政策の歪みは地域にも出ているし、過疎地域にも出ているし、大都会にも出ているので、国の貧弱な政策が基本的な原因だと感じているのですが、そうは言っても我々は毎日生

活していかなければいけないので、やはりできる事から解決していかなければいけないと考えました。

【進行】

ありがとうございます。テーマ④の下から3行目に「キーワードを“安全安心して暮らせるまちづくり”として、地域コミュニティ再生のためにどうしたらよいか。」と書いてあり、ここで1つの結論が出ています。今までの皆さんの意見を聞くと、地域コミュニティが非常に希薄になっていて、つながりがないという事が一つの大きな高齢化の問題としてあるという事ですから、地域コミュニティ再生のためにはどうしたらいいのかという事が1番のポイントだと思います。では、どのような方法があるのか、それは地域によっても違うと思います。北海道と東京と草加ではそれぞれ事情が違います。我々は草加市のまちづくり登録員なので草加の地域の中で考えればいいのですが、草加の地域の中でも駅に近いマンションに住んでいる方と、駅から離れた場所に住んでいる方では違うと思います。地域ごとにどのようなコミュニティを図っていくといいか、どのような方法があるのかという事で意見がたくさん出ました。一息にコミュニティの再生といっても、非常に幅の広いテーマです。コミュニティを再生するための方法論としてどのようなものがあるのか。また、どんなところに着目して進めて行ったらいいかという事で、論点を3つに絞って考えてはどうかというアイデアがあるそうなので、島根登録員から説明をお願いします。

【テーマ出題者】

皆さんのご意見を参考にしながら、事前に考えていたアイデアをお話ししたいと思います。それについて、皆さんからももう少しこうした方がいいというようなご提案をいただければと思います。

1つ目は、「高齢者の活用方策」です。今後、高齢者が増えていきますが、高齢者を活用する方法が草加市だけではなく日本全体を見てもなかなかないので、高齢者を活用するにはどうしたらいいかという事です。先程、育成の場所の話が出ましたが、育成の場所を考えて、草加市の広報誌で調べてみました。例えば、社会福祉協議会主催のふれあいいいききサロンや成年後見セミナー講座、地域福祉講座、認知症サポーター講座や草加市すこやかクラブ連合会、634高年者地域見守りネットワーク事業、ボランティアグループの野ばら会が松原団地の空店舗を利用して実施しているお休み処があります。それから、観光案内所や観光案内ボランティア、出前講座があります。高齢者の人たちにそういったものに参加していただく事も1つの方法だと思います。また、例えば人材的に困っているNPOがあれば、団体に来てもらってどういった活動をしているのかレクチャーしてもらおう。或いは、まちづくりに積極的に取り組んでいる自治体の取り組み事例を聞く事も1つの方法だと思います。それから、インターネットにはまちづくりの方法がたくさんあるので、時間がある時に見ていただくと参考になるような事例が結構あります。例えば、総務省の地域情報化の推進というホームページがあり、事業テーマが事例ごとに出ています。空店舗を利用した事例なども掲載されています。それから、元気なまちづくりのヒントになる活動事例の紹介もたくさん掲載されているので参考になるとと思います。それから、皆さんはご承知かと思いますが、2009年に前の総務大臣、増田寛也さんという方が、人口減少でまちがなくなるというレポートを出しましたよね。高齢化と地域コミュ

コミュニティをどこかで作っていく事です。コミュニティが必要でいいものだったら、どんどんそこに入っていきと思います。そのようなコミュニティがどうしたらできるかという事です。絵に描くだけではなくて実践をしていく、実際に活動をしていく事が必要で、それが居場所づくりであったり、今意見として出てきた事だと思えます。そこをもう少し整理していただき、先程の島根登録員のご意見と併せて検討を進められるといいと思えます。

【登録員 I】

地域ボランティアというのは、例えば豊川稲荷や川越でボランティアがガイドを行っていたり、草加でも草加宿案内人の会がボランティアガイドを行っています。地域の中で、高齢者の人たちが他の地域から来たお客様のおもてなしをする事は大事な事だと思っております。

年配の方は町会活動に対して非常に協力的ですが、若い夫婦の人たちは忙しく、休みの日は家族で出かけてしまうので、町会活動は2の次3の次になってしまいます。町会は、子どもたちの見守りをしています。毎朝信号機の前に立って、3時になると迎えに行くのはみんな年配の方です。

やはり、高齢者と若い世代の接点はお祭りだと思えます。地域のつながりをもってイベントをやる事によって、高齢者と若い人のつながりが生まれます。初めて草加に引っ越して来て、ゴミ出しに行っただけでも「おはようございます」と言えば、1つのコミュニケーションになります。祭事をやる事によって、地域の人たちが多く集まります。まめに出てくる人は何回も出てきます。出て来ない人は引っ張り出しても出て来ませんが、お祭りの音を聞いて、何かやっているのかなといった興味本位でも構わないので、いずれ出て来させるような努力で、町会もそうですが各地域のボランティアやそのリーダーを作っただけ、催しを継続していく事がその地域をコミュニケーションするという意味で非常に大事な事だと思えます。

町会の人たちは行事に追われて大変かもしれませんが、高齢者が催し物をする事によって若い人がついてくるようなまちになればいいと思えます。若い世代の方に一時でも町会の事業に参加してもらえれば、いずれその地域がよくなると思えます。

【進行】

ありがとうございました。

【登録員 C】

こういう議論をする時に自分が一番感じている事は、議論をしている人たちが、自分が住んでいる草加というまちがどんなまちかをご存知か、草加のまちってどういうまちなのかを子どもに説明できるかということです。草加のここにこういうものがあり、草加はこういう歴史で現在があるのだ、という事をお話できるかどうか。自分はまちづくりをする上で、それが一番大事な事だと思えます。商工会議所のまちづくり委員会や「今様・草加宿」市民推進会議でもそういった事を考えて、「草加50のお宝」や「草加お宝かるた」をつくりました。子どもたちに、草加のまちにはこんなものがあるよ、と言えるものを調べなければいけないと思ってそのような活動をしましたが、大人が全然興味を示してくれません。ここにいらっしゃる方もおそらく、自分が住んでいる草加のまちってどんなまちかをほとんど知らないと思えます。草加お宝かるたの内容を半分も知っている方はいらっしゃらないと思えます。そういったところから始めないと、まちづくりはできないと思

ます。自分の居場所がない、活躍する場がない、高齢者だから何もやる事がなくなってしまったというのではなくて、死ぬまで自分は何をやるのだという気持ちで活動する事が一番大事なのではないのかと思っています。今日、こういった問題で集まったというのは何か一つの縁で、今まで20年以上もまちづくりに関わってきて、みんなでまちづくり自治基本条例の市民検証委員会にも携わっていたので、この会議がどういったものになるのかを見届けるつもりで参加しています。ここに来ていらっしゃる人はものすごく意識が高い方ばかりなので心配はないのですが、こういった問題をやる時に、やはり自分の住んでいるまちがどういうまちなのかを知る事が第1だと思っています。

【進行】

ありがとうございます。最後にもう一人お願いします。

【登録員A】

私は年金を月に25万円もらっている高齢者を知っています。その方は、ボランティアはやりたくない、町会も行きたくないと言っています。私も立派な高齢者ですが、できればやりたくない。なぜかと言うとおもしろくないからです。いろんなサークルやグループがありますが、おもしろくなければ行きたくないのです。意識があるとかないとかではなくて、それ以前の話です。だから、一番大事な事は、町会をもっとおもしろく、参加すれば何かメリットがあるものにしていく事です。想定外の事が今後いつでも起きる可能性があります。誰が助けてくれるのでしょうか。隣近所の町会しかないのです。だから、町会に参加したら何かメリットがあるようにしていく必要があります。そういったものがないから無関心なのです。

【登録員C】

反論です。メリットがないというのは自分の責任です。メリットは自分で作るもの。楽しみも自分で作るものです。だから、人に何かを求めてはダメです。こういった会合は、自分が出て行って参加してみんなをひきつけてくる。これがボランティアです。

【進行】

皆さんいろんな思いがありますが、それは意見であっていいと思います。それでは、時間がだいぶ迫ってまいりましたので、結論を出したいと思います。皆さんに出していただいた意見はその全てが結論ですが、私が考えるところでは、一つは地域コミュニティの再生、要するにコミュニケーションです。行ってもつまらないから行きたくない、これは誰でもそう思います。行って楽しいイベントや組織ができれば自分も行って楽しもうと思うし、行ってもつまらないと思えばつまらないかもしれない。これは個人の問題ではありますが、組織の問題でもあります。もう1つは、地域資源として草加独特の歴史や風土、施設があります。例えば、松原団地の建て替えや中央公民館がだいぶ古くなっているといった事も含めて、場所や歴史の問題があります。大きく分けた2つの他にも、また派生してくる問題があると思います。

本日、意見交換を行いました。1つ目は、コミュニティをどのようにつくり、どのようなコミュニティがいいのか。2つ目は、この草加の場所や歴史をハード面も含めてどのように生かせばみんなに興味を持ってもらえるのか。草加に住んでいてよかったと思ってもらえるのか。その2つをテーマとして、もう1度、地域コミュニティの再生について意見交換を行ってはいかががでしょ

	うか。よろしければ、次回の会議では、その2つのテーマで意見交換を行いたいと思います。賛成の方は拍手をお願いします。
【登録員】	(拍手)
【進行】	それでは、次回のみんなでまちづくり会議では、地域コミュニティの再生として大きく2つのテーマに分けて意見交換を行いたいと思います。
【登録員G】	地域資源と歴史はだぶりませんか。
【進行】	だぶっています。だから、「①歴史などといったこの地域について」を1つのテーマで意見交換を行います。もう1つは、「②良好なコミュニティをどうやってつくっていったらいいのか」という事です。それも幅広いと思います。
【登録員D】	ここまで話し合いを行ってきましたが、ここで終わりにしないで次につないでいこうという事になりましたよね。次回につないでいけるような資料を作ってください、本日欠席の方たちにもお伝えして、この場にもっと多くの人に参加してもらえよう動きを作っていただきたいです。
【進行】	本日出た意見を事務局でまとめていただき、まちづくり登録員全員に送ってください。それを見て、おもしろそうだから次は行ってみようと思う人がいると思います。
【登録員J】	一つお願いがあります。歴史をどう生かしていくのかというところで、歴史だけではなく文化も入れて欲しいです。
【進行】	分かりました。それでは事務局にお返ししたいと思います。
-議事終了-	
【事務局】 (藤倉課長補佐)	ありがとうございました。そろそろ時間となりますが、次回の会議でも、本日のように登録員の皆さまのどなたかに進行をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。次回の会議を進行していただける方がいらっしゃいましたら、事務局にお申し出いただければと思います。また、本日は総合政策課の職員が参っております。少しお時間をいただければと思います。
【総合政策課】 (芝田課長)	<p>《草加市総合振興計画について（総合政策課）》</p> <p>草加市では、新しく平成28年度からの20年間、どのようにまちづくりに取り組んでいくかを行政だけが考えるのではなく、住んでいる方や事業を行っている方など、様々な人たちが共有した目的でこうやって取り組んでいこうとまとめた総合振興計画をつくっています。前々回のみんなでまちづくり会議の時に、本日と同じようなワークショップにご協力いただきご意見をいただいたものが最終的にまとまりました。また、ワークショップの際にピンクの付箋に書いていただいた質問についても、皆さんの思いを集めた形で計画をまとめました。5月20日号の広報そうかに概略を掲載しますので、ご覧い</p>

	<p>ただいて、お気づきの点があればご意見をお寄せいただきたいと思います。</p> <p>総合振興計画は、教育や福祉、スポーツや文化や歴史などが全部まとまっている計画です。20年間、このような目標を立ててこうやって取り組んでいきたいと思いますという道しるべになっています。今年度は、今回まとめた話をどこにつなげていくか、実は教育も福祉も子育ても着地する地面がないと話が成立しないので、そういった様々なものがどうやって着地するか、今日の会議でも場が必要だとお話がありましたが、そういったハード面のまちづくりについて議論していただくような機会を1年間かけてまとめていきたいと考えております。今年度は10ブロックに分かれたコミュニティブロックごとの議論を5月の中旬から下旬にかけて開催させていただきたいと思っております。地元でそういった場がございますので、ぜひお越しいただいてご意見をいただければと思っております。みんなでまちづくり会議以外にもご意見を伺わせていただく機会を設けていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひします。また、私の質問はどうなっているの、という事がございましたら、会議終了後にご質問いただければと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
<p>【登録員 J】</p>	<p>過日、「今様・草加宿」市民推進会議で懇談会に参加させていただいた時に、この計画の中には歴史や文化の観点が考えられてない事はどうかとお話をさせていただきました。今後、地区別懇談会でも同じような事をやるのですか。</p>
<p>【総合政策課】 (芝田課長)</p>	<p>地区ごとに生活のスタイルや考え方、活動できる場所などが違うので、まずは今回まとめた総合振興計画をヒントにして、それから地域ごとに落とし込んでいくとどういったまちづくりが考えられるのかという流れでやらせていただきたいと思います。ご指摘いただいた歴史と文化については、皆さんのご意見をまとめた第四次総合振興計画の基本構想・基本計画（素案）の中にしっかりと反映させていただいております。</p>
<p>【登録員 J】</p>	<p>私が前回出席したような会議で行政が市民に対して説明した内容から一歩も前進してないのであれば、地区別懇談会に出る必要がないと考えております。十分検討していただいて、一歩でも前進したものを市民に提案していただくのであれば出席したいと考えております。</p>
<p>【総合政策課】 (芝田課長)</p>	<p>しっかり受け止めさせていただいて出していきます。よろしくお願ひします。</p>
<p>【事務局】 (藤倉課長補佐)</p>	<p>ありがとうございました。次回の会議は、平成27年7月23日(木)に中央公民館第1・2講座室で開催します。これをもちまして、平成27年度第1回草加市みんなでまちづくり会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>

平成27年度第1回草加市みんなでまちづくり会議

次 第

日 時：平成27年4月21日（火）
午後7時00分～午後9時00分
会 場：中央公民館第1・2講座室

1. 開 会

2. 議 事

「地域コミュニティの再生－安全・安心して暮らせるまちづくり－」

3. 閉 会

【配布資料】

- ①草加市みんなでまちづくり会議応募テーマ一覧（5件）
- ②みんなでまちづくり会議の運用
- ③草加市みんなでまちづくり自治基本条例リーフレット

■（みんなでまちづくり会議）・・・草加市みんなでまちづくり自治基本条例より抜粋

第26条 市は、次の事項について市民の参画を実現するため、まちづくり登録員で構成するみんなでまちづくり会議を開催します。

- (1) 前条のまちづくり計画の提案
 - (2) パートナシップによるまちづくりの政策提言
 - (3) この条例の運用の監視
 - (4) この条例の調査・研究
 - (5) その他この条例に基づくまちづくり
- 2 市は、前項の内容を公表します。
 - 3 市は、みんなでまちづくり会議において提案され、話し合われた事項について、市政に反映するよう努めます。
 - 4 市は、前項の反映結果について公表し、みんなでまちづくり会議で説明をします。
 - 5 みんなでまちづくり会議は、前項の反映結果について納得できない場合は、別に定めるところにより、市議会で意見を述べる機会を求めることができます。
 - 6 市議会は、前項の意思を尊重します。

《草加市みんなでまちづくり会議 応募テーマ一覧（5件）》

テーマ① 「子どもと大人の人権を大切にすまちづくり」

内 容：すべての人の人権が大切にされ、心地よく暮らせる街になるよう、「当事者」の話を聞き、立場の異なる人に対する共感を持つことを目指して、「人権」の問題を考える機会（フォーラムなど）を開く。単発的なものではなく、繰り返し、機会を重ねていくこと。子どもと大人が共に学び、認識を深めていけるものであること。「草加市子どもと大人の人権条例」のようなものが出来たら嬉しいと思います。

テーマ② 「首都直下型地震時の老人世帯の避難補助体制の構築」

内 容：現在は、地区民生委員が老人世帯のうち要介護者を主体に名簿を管理していますが、とても民生委員一人で25から50人もの老人の避難を援助できません。具体的な法律も条例もありません。どうしますか？

テーマ③ 「人が健康で楽しさ溢れるエアの町 草加」

内 容：子どもも大人も老人も住んで楽しい美しい町をめざす。自転車ロードを作り、体を鍛え、排気ガスの少ない町をめざす。日本で魁エアの町にする。その横には、花を植え、楽しい美しさを入れる。資源や特徴のない町だからこそ、必要である。まず始めに、河川の道を整備し、草加の町を一周できるようにする。老人の楽しみも増え、介護を受ける人も少なくなり、介護医療費を抑える事になる。

テーマ④ 「地域コミュニティの再生ー安全・安心して暮らせるまちづくりー」

内 容：少子高齢化が喫緊の課題となっています。大所高所の政策・施策は国や県が取り組むべきと考えますが、市民レベルで取り組める課題もあるように思います。それが本会議の目標でもありましょう。そこで、身近な問題として高齢者問題の観点から「地域コミュニティの再生」について考えてみたいと思います。シャッター街商店や空き屋の増加、老人の孤独死など、地域の崩壊が言われています。キーワードを“安全安心して暮らせるまちづくり”として、地域コミュニティ再生のためにはどうすればよいか。退職高齢者の増加（団塊世代）と活躍の場も視野に入れ、議論できればというのが趣旨です。

（※裏面あり）

テーマ⑤ 「市民が安全にかつ快適に利用できる公共的施設づくり」

内 容：建築から40年以上経過している「草加市文化会館」「草加市中央公民館」「草加市体育館」等の公共的施設はかなり老朽化しており、耐震性等の安全性の問題、修繕費支出の増加問題、利用する市民の利便性等の観点から、近い将来取り壊しが必要となることが予想される。

現在はそれぞれ別の建物となっているが、これからは総合的複合施設として、多機能のコンプレックスビルとして生まれ変わることが、利用する市民の安全性、草加市の支出費用の合理性、利用者の快適性等の観点から望まれるところである。

どのような機能がその建物に与えられるかも含めて、まちづくり会議のメンバーが建築場所や費用について検討し、実現に向けて提言していきたいと思う。

みんなでまちづくり会議の運用

みんなでまちづくり会議 の3つの機能

①市民同士の話し合い

市民が
集まる場

情報交換
の場

議論のテーマを市民が発意し、市民が他の市民と話し合える場として活用できる機能。

同じテーマで活動する団体との情報交換や協力関係を築く場として活用したり、全く別のテーマで活動する団体からの新たな発想や広い視点での意見交換ができる場として活用します。

普段、なかなか接する機会のない市民同士が集まり、意見交換することで、新たな気づきが生まれます。

②市からの発信・情報共有

市の情報
発信の場

市民意見を
聴く場

市民からの提案がなくても、出来るだけ定期的な開催が実現できるよう、市が情報を発信したり、市民の意見を聴く場として活用します。特に、市の重要な計画等を策定する場合は、パブリックコメントとは別に、積極的にまちづくりに取り組む市民の意見を聴くことができる機会として活用します。

③提案について考える

市民への
相談の場

提案を議論
する場

提案の前段の相談手法のひとつとして、みんなでまちづくり会議を市民同士の意見交換や協力体制確保の機会として活用し、まちづくりへの市民参加を促進するとともに、提案をより具体性のあるものとなるよう市民同士で提案を考える場としても活用します。

市民同士
の連携

市民活動
の活発化

提案

協働事業

市民自治
の実現

と

パートナー
シップによる
まちづくり

提案できるまちづくり計画の要件

①対等の立場

パートナーシップによるまちづくりの7つの原則に基づくもの
(主体性・対等性・協調性・柔軟性・公開性・普遍性・発展性)

②共通して取り組む目的

市の基本構想及び各分野の基本的な計画に反しないもの

③役割分担

提案者と市の役割分担が設定されているもの
(双方の役割がゼロでないもの)